

新定

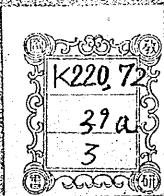
中等習字帖

三

K220.72

39a

3



新定



中等習字帖

震天動地大功

三ノ一

待偉人始可觀

群島數十百四面環

三ノ二

海富魚水藻等之産

斯為實我皇祖  
皇宗之遺訓而

子孫吾民可  
信道也

布帆駕風輪船破  
浪遠航四方以爭

輪船外市高買之  
業亦快哉

剛毅は柔弱となり  
敦厚は軽薄となり  
誠實は詐偽と

なり  
象理は黄毫となり  
人情の通弊心せずばあるべからず

履歷書

東京市麴町區富士見町二丁目六番地  
平民正木文二長男 正木文太郎

明治貳拾四年壹月五日生

一明治三十四年四月富士見小學校ヲ卒業シ

三ノ六

テ東京府立第一中學校ニ入學シ同三十九年三月卒業ス

一明治三十九年四月三井物産會社雇員トナ  
リテ實務ニ從事シ傍ラ夜間英語ヲ學ブ  
右之通り相違無之候也



美頤の波深澄げば天神となり  
り立てば岳王となり溼海浩

苗真に壯觀ならずや大人物  
の規度多くこれに類す

谁将东海水濯出玉芙蓉  
惜地三处尽插天八条重

重露蒸大慧日月避中家  
独立原无说自为众嶽宗

男籠山は雪を戴きて巍然として高  
く如雲白根の諸山又雪の俣に峙て

り而才に書れて弥雪紅梅の習に來  
住し殆ど素とお先後するもの如し

去以一身謝尉而居我以天下  
之重自信豈非感後值遇以才

許國哉故能以赤手障江河回  
天日於既墜何生壯也

月より流るゝ風梢をわたる  
ごとに庭の橋影と月光と  
お抱りて跳り白ゆらぎ思

さゝめきて空中を歩する身  
はこれ無熱池の藻の習に游  
ぶ魚なるとざるかを疑ふ

日本國も島國にて地勢は英國と同様に凶産地  
へばこれより國民一同大奮發にて英國の富強  
に追著く極勉強を致さねばならずと存じゆ美  
人は全世界に領土ある故常に日没せざる國と

誇稱致居り於今也東洋の日出國と西洋の日不  
没國と同學を致弦びゆも何かの因縁に可者之  
兩國提携して我國民も平和の戦多即ち商業の  
上に大功業を立てたきものに凶産地

弱冠前後為人生大難。冥血未定，心  
思易動。一旦流落，遂誤。此乃必也。內耗

嚴父兄外，資良師友，起居有節，出入有  
度。此於修學，無忘於心。易為業可矣。

穠赤を望を眉にして心を  
出づれば或は寒月高く雲  
霧深河たる夜あり或は水

風如錦して野狐の形に叫  
ぶ夜あり或は冷霧及人を  
覆せず或は積雪夜を没す



茶番の試合茶田の縁角龍躍  
り席吸え両刀を拵ふ言本あ  
れば小太刀を執る牛蒡あり

惑は大手をひろげてむざと  
担み伏するあり惑は足を拵  
まれつ、仰向に倒るゝあり

吾本布衣躬耕於南陽苟  
食性命於亂世不求少達  
於諸侯先帝不以吾卑鄙

猥自枉屈三顧吾於草廬  
之中諮臣以當世之事由  
是感激遂許先帝以驅馳

空にそびゆる高子種の  
言家おろしに学も本も

磨きふしけむ大御代を  
仰ぐ今日こそ楽しけれ

君がよは子代にハ千代にさざれる  
の岩ほとなりて考のむすまで

山はさけ海はあせなん世なり  
とも君に二心わがあらめやも

22297

# 海雀丹羽正長書



定價各金廿貳錢

明治四十二年三月六日發行  
明治四十二年五月廿九日訂正再版發行  
明治四十二年五月廿九日訂正再版發行

東京府豊多摩郡西大久保四十九番地  
友田宜剛

東京市四谷區傳馬町壹丁目卅五番地  
丹羽正長

東京市日本橋區通四丁目七番地  
青野友三郎

發行兼印刷者

發行所

日本橋區通四丁目七番地  
(電話本局三一五八番)

文魁堂書店

不許複製

